

# 2005年3月期決算説明会

2005.6.1

日本板硝子株式会社

( 2005年3月期決算説明会のご説明文をここに記載してまいります。 )

## 本日の内容

### 1. 今決算のポイント、セグメント別実績概況

執行役員 経理部長 小柴 博義

### 2. 中期経営計画「CCP300」と 今年度の事業方針、見通しについて

代表取締役 社長執行役員 藤本 勝司

まず、経理部長の小柴より、  
今決算のポイント、セグメント別実績概況を、  
続いて、社長の藤本より  
今年度より始まる中期経営計画「CCP300」と  
今年度の事業方針、見通しについて説明いたします。

## 今決算のポイント

まず2005年3月期の決算のポイントです。

## 連結損益計算書

(単位:10億円)	平成16年 3月期	平成17年 3月期	前期比
売上高	269.1	265.0	98.5%
営業利益	10.0	12.0	120.3%
(営業利益率)	3.7%	4.5%	-
営業外損益	-2.3	1.2	-54.1%
経常利益	7.7	13.3	172.3%
(経常利益率)	2.9%	5.0%	-
特別損益	1.9	-1.8	-97.2%
税引前当期利益	9.6	11.4	119.0%
税引後当期利益	3.2	7.6	237.1%
(当期利益率)	1.2%	2.9%	-
1株あたり当期利益	7.2円	17.1円	-
ROE	1.6%	3.7%	-

### 売上

譲渡したガラス磁気ディスク(約100億円)、イソライト工業(約75億)、天津フロート(約30億)日本ペルノックス(約20億)を除くと、実質7%以上の増収。

### 営業利益

不採算部門のリストラとSLA、液晶基板ガラスなど成長製品の増加。

### 営業外損益

持分法投資利益改善(+32億円)、支払利息減少で金融収支改善(+9億円)

### 特別損益

特損は60億円減少。相対の株式売却を減らしたため特損益ネットではマイナスに。

まず終わった期の損益計算書ですが、

売上については、前年比1.5%の減収ですが、譲渡したガラス磁気ディスク事業(約100億円)、イソライト工業(約75億)、天津フロート(約30億)、日本ペルノックス(約20億)といった要因を除くと、実質7%以上の増収であります。

営業利益は、不採算部門のリストラとSLA、液晶基板ガラスなど成長製品の増加によって前年比20.3%の増益。営業外損益で、NHテクノグラスを中心とした持分法投資利益の改善(+32億円)と、支払利息減少で金融収支改善(+9億円)などがあり、経常利益はこれら要因と営業利益の増加とあわせ、前年比72.3%増益となりました。

特別損益として、一連のリストラの終了で特損は60億円減少しましたが、相対の株式売却益を減らしたため、特損益ネットでは前年比マイナスになりました。

結果、当期利益は前年比137.1%増となりました。

## 連結貸借対照表

(単位:10億円)	平成16年 3月期	平成17年 3月期	前期比
流動資産	165.8	167.7	101.2%
(うち、現預金)	(56.0)	(64.2)	114.6%
固定資産	276.4	259.2	93.8%
総資産	442.2	426.9	96.6%
負債	235.7	218.9	92.9%
(うち、有利子負債)	(134.1)	(121.3)	90.5%
少数株主持分	5.9	2.7	46.7%
資本	200.6	205.3	102.3%
資本金	41.1	41.1	99.9%
剰余金	141.0	146.0	103.6%
その他	18.5	18.3	98.6%
総資産	442.2	426.9	96.6%
ROA	2.5%	3.6%	-

ROA=(経常利益+支払利息)/総資産

資産圧縮と有利子負債の削減進み、  
財務健全化がさらに進展。

イソライト工業の非連結化の減少効果  
は約60億円。  
一方で、設備投資は増加。

社債発行(+230億円)、  
社債償還(198億円)、  
借入金純減(82億)。  
イソライトの非連結化の効果大。  
(約70億円)

D/Eレシオは 0.67 0.59に。

貸借対照表ですが、

全体としては、資産圧縮と有利子負債の削減が進み、  
財務の健全化が一層進んだといえます。

イソライト工業の非連結化による資産減少効果は  
約60億円。一方で、設備投資は増加しております。

有利子負債増減の内訳については、社債発行(+230億円)と、  
社債償還(198億円)、借入金純減(82億)。

借入金減少ではイソライトの非連結化の効果が大きい(約70億円)。

D/Eレシオは 0.67 0.59になりました。

総資産の減少と利益の拡大によりROAは2.5%から3.6%に増加しました。

## 連結キャッシュフロー計算書

(単位:10億円)	平成16年 3月期	平成17年 3月期	前期比	
営業CF	17.6	16.8	95.4%	税前利益 114億円 償却費 126億円
投資CF	9.6	-0.3	-2.6%	固定資産取得 125億円 有価証券売却 +70億円 固定資産売却 +68億円
フリーキャッシュフロー	27.2	16.5	60.7%	
財務CF	-16.6	-7.8	47.0%	社債発行 230億円 社債償還 198億円 借入金純減 82億円
期首現預金残	45.8	55.4	120.9%	
期末現預金残	55.4	63.5	114.7%	
(単位:円)				
1株あたり配当金	3.0	6.0	-	中間配当金を3期ぶりに復活。

キャッシュフロー計算書については、

営業CFは税前利益と償却費などにより168億円のプラス。

投資CFは固定資産取得に対し、有価証券売却、固定資産売却などがあり、トータルで3億円のマイナス。

財務CFは社債の発行と償還、及び借入金の削減で78億円のマイナスとなりました。

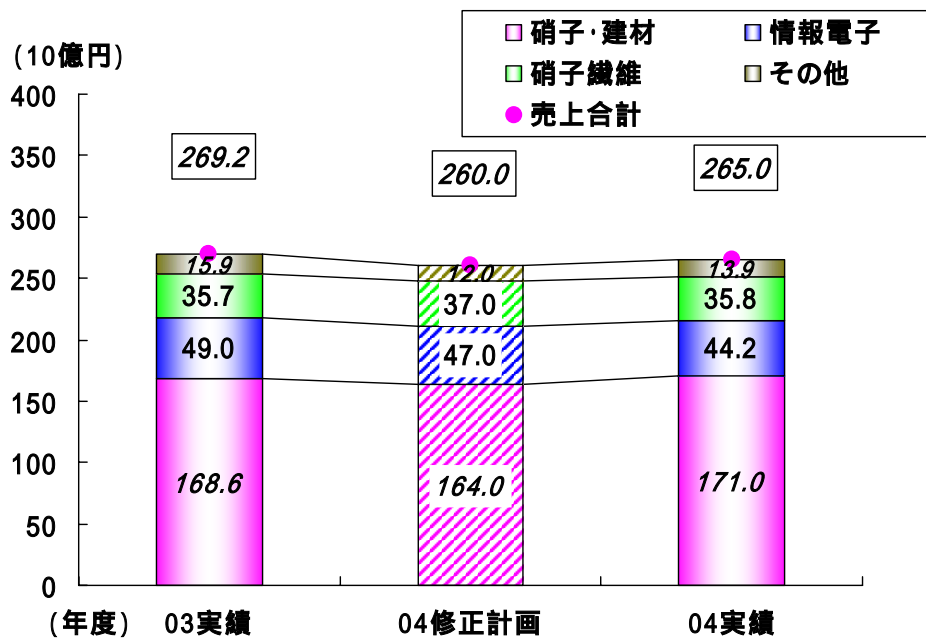
配当金については、中間配当金3円を3期ぶりに実施し、期末配当金3円とあわせ、

6円とさせていただきたいと思っております。

## セグメント別実績概況

続いてセグメント別の実績の概況です。

## セグメント別 売上高

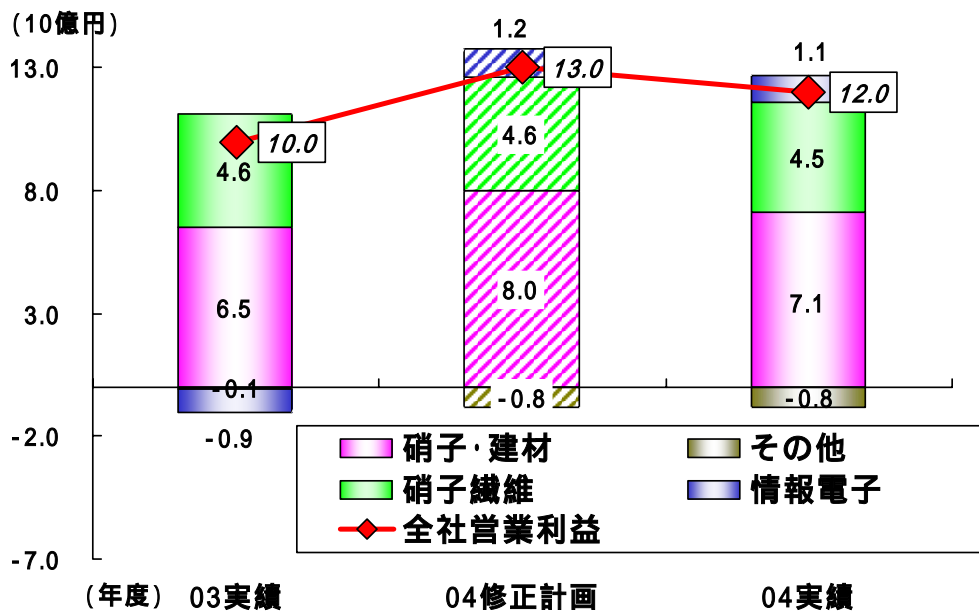


(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

セグメント別売上高としましては、先ほどご説明したリストラ関連の要因で前年比で売上が目減りしていますが、これを除くと増収となっています。昨年秋に発表した修正計画との対比では、ガラス部門がプラスとなった一方、情報電子、硝子繊維では市況の影響があり、若干のマイナスとなりました。

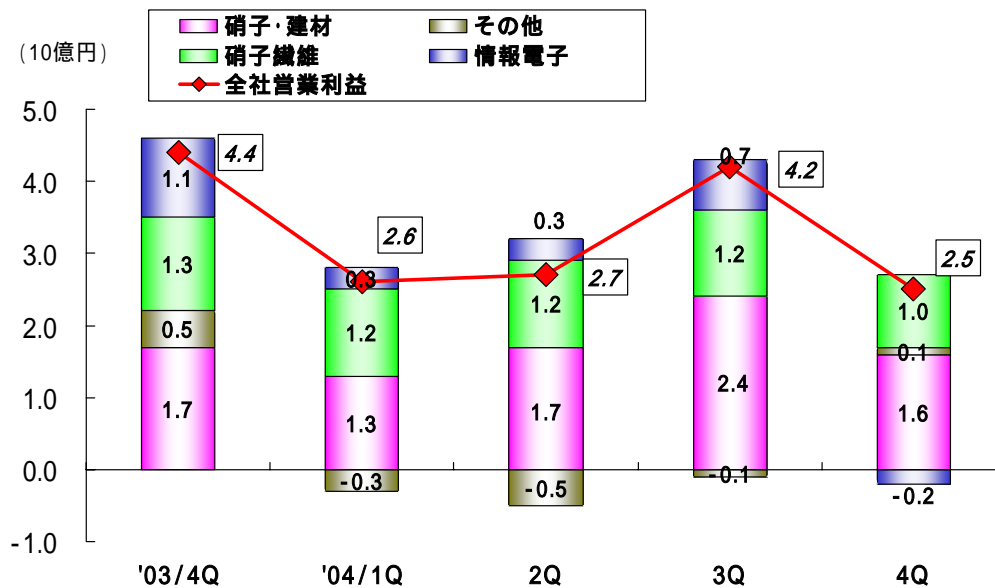


## セグメント別 営業利益



セグメント別の営業利益としては、  
 情報電子が黒字化したことが大きいかと思えます。  
 昨年秋に公表した計画に対しては、  
 各セグメントごとで若干下ぶれとなっていますが、  
 要因は後でご説明します。

### セグメント別 連結営業利益(四半期推移)



(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

セグメント別の四半期別営業利益推移です。

ガラス建材では、下期以降原油、その他各種素材価格が一段と値上がり、ガラス製品値上げや、原価低減の効果が追いつきませんでした。

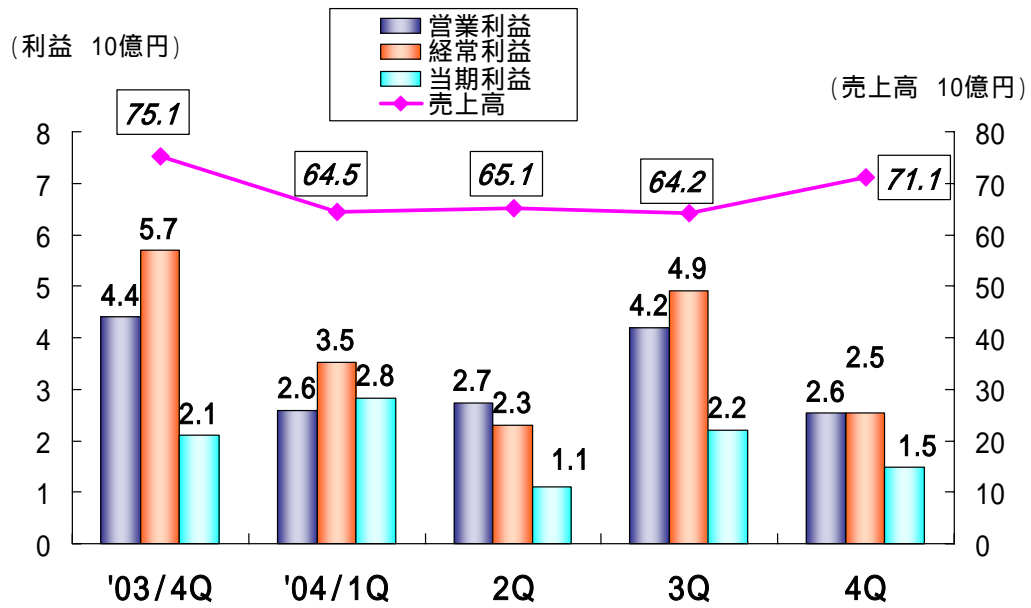
情報電子は、3Qをピークに液晶等の在庫調整の影響を受け、

4Qでは一転して営業赤字になりました。

ただし今期7月以降、需給回復との声も聞かれており、ここが底だと思っています。

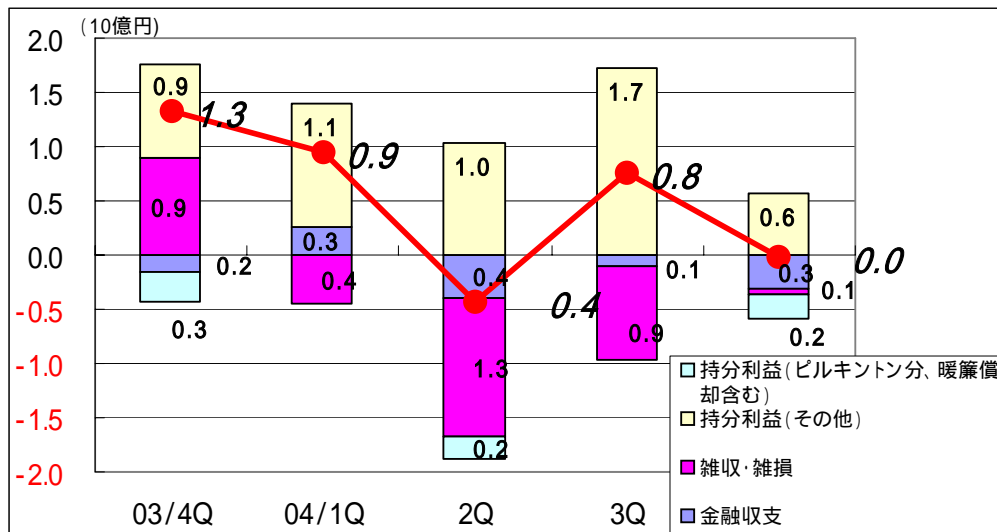
硝子繊維も4Q以降、フィルタでの半導体関連のピークアウトが聞かれており、またセパレータの競争環境が厳しいこともあり、若干減少しました。

## 2004年度 四半期損益推移



2004年度の四半期毎の全社損益推移です。  
 ご説明したような要因もあり、4Qで利益が減少しました。

## 2004年度 営業外損益推移



(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

12

営業外損益の四半期推移です。

ビルキントンは四半期開示を行っていないので

2Q、4Qにこの会社の持分利益と暖簾償却が計上されます。

暖簾代とのネットとしては、若干のマイナスとなります。

その他の持分利益には、NHテクノグラスを中心として入っています。

前期は営業外損益がネットでプラスに転じたことで、

経常利益が営業利益を上回りました。

NHテクノグラスなどの持分法利益の貢献と有利子負債の削減による金融収支の改善が主な要因です。

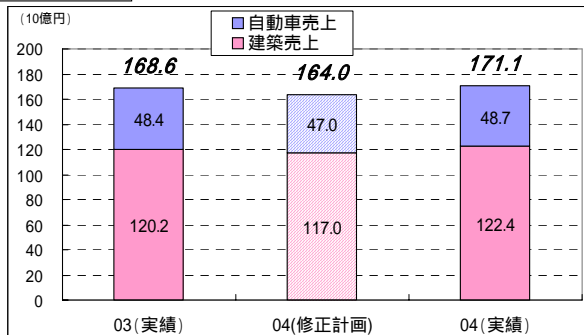
# 板ガラス分野(硝子・建材)



続いて、セグメント別に見てまいります。  
まずは板ガラス分野です。

## < 板ガラス分野 > 売上、営業利益推移

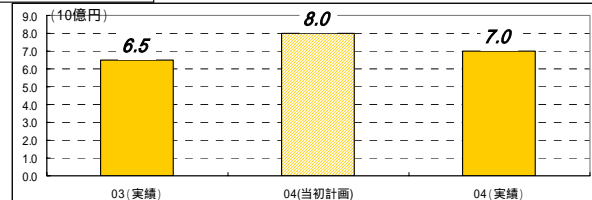
### 売上



### 04年度実績コメント

- ・建築分野  
(国内)  
・売上は新築着工増、付加価値商品の拡大によりプラス。  
・利益面では、売上増、コストダウンは予定どおり進捗したが、原燃材料アップは価格転嫁でカバーしきれず。
- (海外)  
・天津フロート譲渡の影響(約30億円)あるも、他の地域が好調に推移。
- ・自動車分野  
・04年度は原燃材料コスト上昇を吸収しきれず、減益。

### 営業利益



(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

14

上が売上。下が利益のグラフです。(単位は10億円)

03年度実績、04年度計画(昨年の中間決算で見直した計画です)、04年度実績、と並んでおります。

04年度実績の前年対比としては、

- 国内建築は、売上は新築着工増、機能ガラスの増加によりプラス。  
利益も、売上増、コストダウンの効果で増益となりましたが、  
原油価格等の原材料コスト上昇により、若干相殺された形となりました。
- 海外建築は、マレーシア、ベトナムが好調に推移し、売上ベースで譲渡した天津の減額分をカバーしました。利益面でも増益となりました。
- 自動車は04年度は売上は概ね堅調。しかし原材料コスト上昇を吸収しきれず、若干の減益となりました。

板ガラス分野全体の営業利益は、03年度から約5億の増益にとどまりましたが、これは売上げ増、コストダウンの効果が20億円以上ありましたが一方で、原油等資材単価の上昇による原燃材料の悪化は全社で約20億円。このうち、8割がガラス分野で、約15億円のマイナスとなりました。

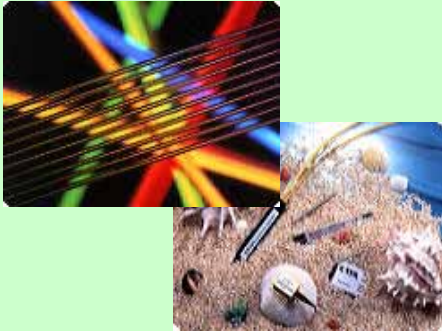
計画との差異としては、

- 利益が悪化しているのは、やはり原油価格の影響であります。
- 修正計画で1バレル37ドルと見ておりましたが、年度末では、40ドルを越えて来ておρισ、価格転嫁が追いついていないのが主要因です。

## 情報電子分野

### 情報通信デバイス

SLA、SLED、化学強化ガラス他  
OA機器用部品  
セルフォックマイクロレンズ、  
各種通信用デバイスなど



### ディスプレイ

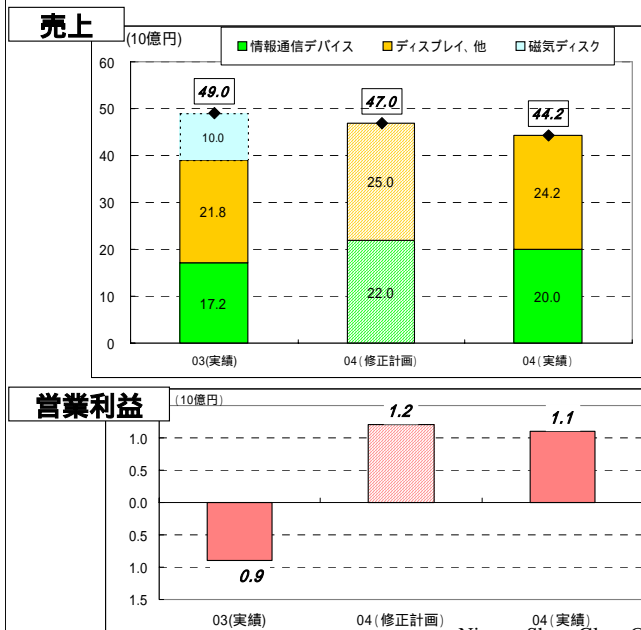
液晶用基板、PDP基板など



(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

次に情報電子分野です。

< 情報電子分野 > 売上、営業利益推移



04年度実績コメント

磁気ディスク事業譲渡(約100億円)、日本ペルノックス社譲渡(約20億円)の影響により、全体の売上は、前年比マイナスだが、これを除くと、+5.2億円(13%増)。

情報通信デバイス

- ・光通信は回復ペース鈍い。
- ・プリンター用光部品はMFP向けに出荷好調に推移。

ディスプレイ、その他

- ・UFFを中心に前年比大幅に増加。
- ・下期以降ペースダウンしているが、4Qが需要の底と見る。

同じ様式で並んでおります。

前年度との対比では、売上は、磁気ディスク事業譲渡の影響(前期売上 約100億円)、日本ペルノックス社の譲渡(同 約20億円)の影響で全体では前年割れですが、これを除くとプリンタ向けレンズ部品やディスプレイ関連の好調で+5.2億円(13%増)と大幅プラス。

営業利益は、大幅に収益が改善し、通期としては4期ぶりの黒字に転換しました。03年度に9億円の赤字だったものが、04年度は11億円の黒字で、20億の大幅改善となりました。

要因は 磁気ディスク事業譲渡の効果が約10億円。

情報通信デバイス、ディスプレイの増益があわせて10億円ということになります。

当初計画との差異では、

売上については、情報通信デバイスの分野では、光通信での売上げ増を下期に見込んでいましたが、残念ながらまだ立ち上がらなかったが影響しております。プリンター用光部品はレンズのSLAは好調だが、光源のセルガイドが競争激化で苦戦により若干ダウンしました。

ディスプレイは、液晶の在庫調整の影響がやはり4Qに予想以上に出まして未達となっています。

営業利益は、これらの売上減の要因が主因です。



# ガラス繊維分野

## ゴムコード

自動車用タイミングベルト



## バッテリーセパレータ

自動車、無停電装置などの鉛蓄電池



## フレイク他

耐食、プラスチック強化材  
光輝性顔料素材



## フィルター

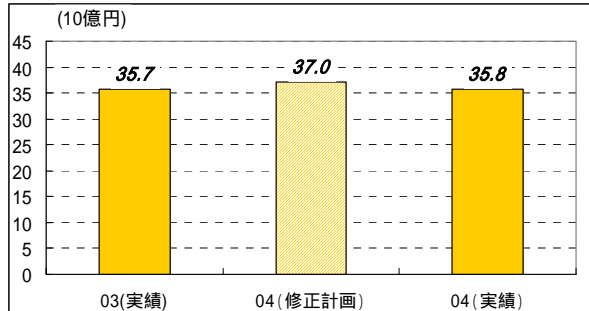
クリーンルーム用など



最後にガラス繊維です。

< ガラス繊維分野 > 売上、営業利益推移

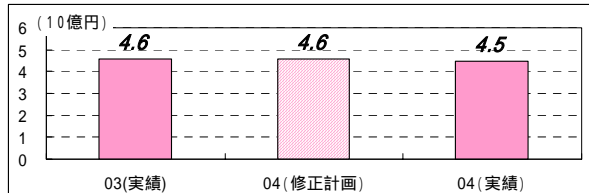
売上



04年度実績コメント

- ゴムコード
  - ・欧州向けを中心に好調。
- フレーク、メタシャイン
  - ・海外プラント向け耐食用フレークが好調。
  - ・メタシャインは04年度は踊り場。
- エアフィルタ
  - ・半導体、液晶工場向け好調。
  - ・下期以降、ペースダウン。
- バッテリーセパレータ
  - ・下期以降、競争激化で価格下落。

営業利益



前期との対比では、ゴムコード、エアフィルタなどが好調だった半面、半導体工場向けフィルタ需要のピークアウトや、セパレータの事業環境が悪化していることなどから、全体としては、ほぼ前年並みとなりました。修正計画に対しては、3Qまでは順調だったものの、4Qでこれらの傾向が強くなったため、マイナスとなりました。

中期経営計画「CCP300」と  
今年度の事業方針、見通しについて

**CCP300**   
(2005～2007年度)

(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

19

続きまして、今年から新中期計画「CCP300」スタートにあたり、  
初年度である今年度の方針、見通しについて  
ご説明いたします。

## 新中期計画「CCP300」

### 長期目標の中での位置づけ

中期計画は“New Vision”達成へのマイルストーン。

リストラによる収益改善に目処。  
**今後は、成長商品による成長軌道へ。**

*New Vision*

2010年の姿

- 勝ち組に生き残るために -

売上規模 5000億円  
 経常利益 500億円  
 ROA, ROE 10%以上



### 目指す方向

- ・既存事業の再強化
- ・独自の技術・新商品・新分野の育成

**拡大成長を目指す“New Vision”路線への完全回帰**

CCP300の位置づけ、目指す方向については、  
 これまでにご説明している通り、  
 2010年のニュービジョン達成に向けてのマイルストーンであり、  
 ここへ向けての成長戦略であります。

ACT21(2001～2004) 総括

1. 事業環境

ITバブルの崩壊等、期初からの事業の前提の激変。

マーケット情報不足によるアクションの遅れ

2. 対処

事業構造の見直しによる資産圧縮、リストラ  
不採算事業からの撤退、選択と集中  
成長への布石

経常赤字転落から1990年レベルの利益回復へ

3. 今後生かしていける点

バランスシート改善  
人材含むリソースの集中投入  
ニュービジネス、新事業創生のベース  
ガバナンス強化による監督・執行の責任明確化

これもご存知のことではありますが、昨年度までの中期計画「ACT21」について、振り返りますとご覧のようなことでもあります。

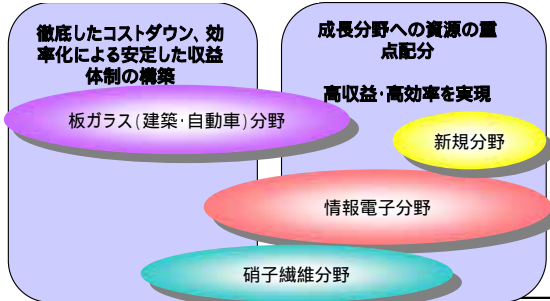
ACT21の成果として、今後生かしていけることとして、  
バランスシートの改善が進んだことにより機動的に  
諸施策が打てること。

撤退事業から引き上げた人材や資金を成長分野に投入  
できること。

ニュービジネス・新事業創生のための開発は確保してきた  
ことから、今後の具体化が期待できること。

コーポレートガバナンスの観点から、監督と執行の分離を  
進めてきたことから、今後、取締役による監督の強化、と  
同時に、執行側の執行スピードアップを実施していける、  
などのものがあります。

基本戦略



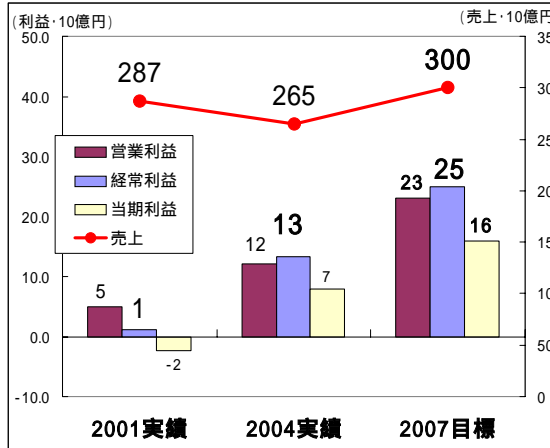
重点課題のシフト

ACT21	新中計
成長への布石	成長事業の拡大
ニュービジネス創設	ニュービジネス拡大
	海外事業強化
不採算事業の撤退	
選択と集中	現場強化による収益改善

基本戦略、重点課題については、ACT21の路線を継承しながらも、現場重視の視点と成長分野の拡大、ニュービジネスをさらに進めていくものであります。

# 新中期計画「CCP300」

## 業績目標まとめ



(10億円)	2004年度	2007年度
売上	265.0	300.0
板ガラス	171.0	182.0
情報電子	44.2	72.0
ガラス繊維	35.8	40.0
その他	13.9	6.0
営業利益	12.0	23.0
板ガラス	7.1	12.0
情報電子	1.1	7.0
ガラス繊維	4.5	5.0
その他	-0.8	-1.0
経常利益	13.4	25.0
当期利益	7.8	16.0

ROA,ROE とも6%台に

そしてこれが全体の業績目標のまとめです。

2007年度に

売上 3000億円

経常利益 250億円を目指します。

同時に、ROA、ROEについても6%台を目指しております。

「CCP300」と今年度の事業方針について

**取り組み方針**

**CCP300**

**製造・開発・販売の現場を重視した、ものづくりに強い会社**

匠の技によるつくりこみ、品質向上  
先端技術へのあくなき挑戦

- ・資源配分の製造現場への重点化  
(短期集中)
- ・骨太の技術者の育成・基盤技術の構築・技術技能の伝承

**2005年度**

**中計初年度として土台作り**

1. 資源配分の製造現場への重点化  
～ スタッフ部門からライン部門への技術者の人員配置換え  
(ライン技術者 3割アップ)
2. 骨太の技術者の育成・技術技能の伝承、レベルアップ  
～ 「技術道場」による技術者レベルアップ  
～ 現場での技能、スキルの教育強化



**品質・生産性の早期強化**

成長路線に戻る土台として、この会社を製造・開発・販売の現場を重視した、ものづくりに強い会社になりたいと考えています。

それはつまり、匠の技によるつくりこみ、品質向上であり、先端技術へのあくなき挑戦によってできるものと考えています。

今年度は、この考え方の仕組みづくりとして、PDCAをきっちりと回していける流れを作りこみたいと考えています。

具体的な施策としては、

1つめには、資源配分の製造現場への重点化。

具体的には、～ スタッフからラインへの人員配置換えで、ライン技術者の人員を現状の3割アップを考えています。

2つめには、骨太の技術者の育成・技術技能の伝承、レベルアップ

具体的には、～ 「技術道場」による技術者レベルアップや、現場での技能、スキルの教育強化であります。

これによって、品質・生産性の早期強化を図り、利益に貢献できるものと考えています。



## 板ガラス分野(硝子・建材)



建築用ガラス、建材

自動車用ガラス  
各種車両用ガラス

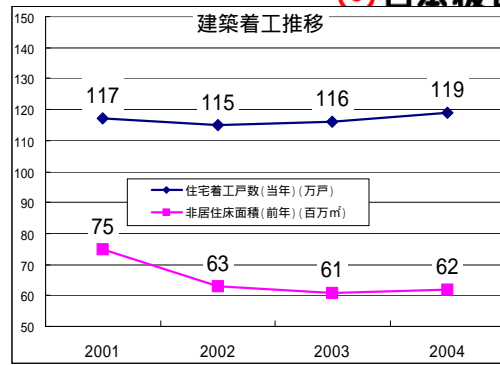
続いて、セグメント別に見てまいります。  
まずは板ガラス分野です。

## 板ガラス分野 < 建築用ガラス >

### 事業環境

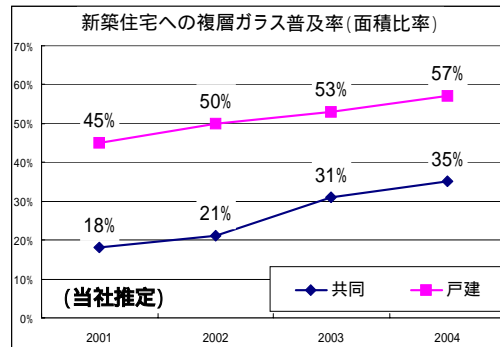
#### 建築着工推移

04年の住宅着工は駆け込み需要もあり  
堅調。非居住(ビル)はほぼ横ばい。



#### 複層ガラス普及率

- ・戸建、共同住宅とも新築普及率は堅調な伸び。
- ・既存住宅での普及率は、海外に比べ依然低い。



(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

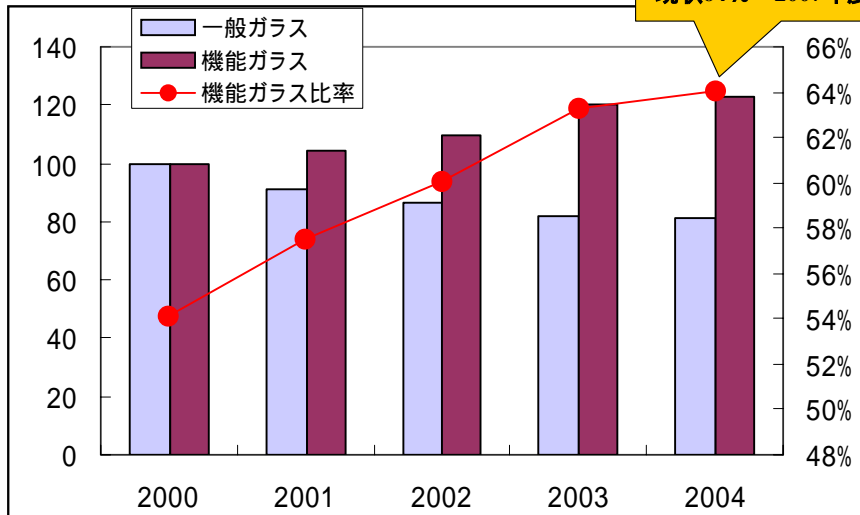
国内建築用ガラス事業の事業環境としましては、上のグラフにありますように、住宅着工戸数は昨年度119万戸、非居住着工床面積は62万㎡ありますが、今年度についてもほぼ横ばいを見られます。

一方、下のグラフの新築住宅への複層ガラス普及率は年々伸びており、新築戸建住宅で57%、マンションなど共同住宅では、35%程度まで来ておりまして、今後も高まっていくものと予想しています。

## 板ガラス分野 < 建築用ガラス >

### 当社出荷の国内建築用ガラスの品種動向(金額)

(2000 = 100)



(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

27

次に、実際の当社のガラスの売上金額のうち的一般品(単板)と機能ガラスの割合の推移であります。2000年を「100」として、機能ガラスの割合が一貫して増えています。

当社の売上では、ガラス以外にサッシ建材などがありますが、ガラスの売上に限って見ると全体のガラス売上のうち、機能ガラスの割合は現状すでに64%程度でありまして、2007年には順調に伸びて70%程度になるものと想定しています。

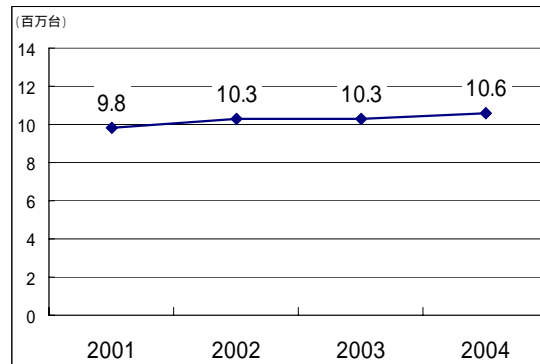
## 板ガラス分野

< 自動車用ガラス >

### 事業環境

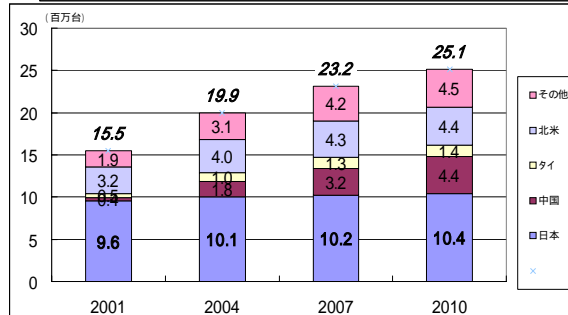
#### 国内自動車生産台数

- ・堅調な国内需要と輸出向けで国内生産は前年比やや増加。



#### 日系自動車メーカーが発注権を持つ車種の生産台数予測

- ・海外現地生産の拡大で全世界ベースで大きく増加。



出典: J. D. Power

(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

一方、自動車用ガラスの環境であります。上のグラフの日本国内の自動車生産台数も、10百万台程度でほぼ横ばいと予想しております。

その一方で、下のグラフは日系の自動車メーカーが世界で生産する台数の予測であります。海外での日系カーメーカーの増産計画は相次いで発表されております。特に中国での生産拡大が今後も続くものと見ておまして、2010年までに中長期的には現状の2倍以上に伸びるものと見ております。

## 板ガラス分野

### 事業別方針

#### CCP300

##### < 建築用ガラス >

- ・国内 機能ガラス 1の地位確立  
断熱・防犯・リフォーム等成長分野で拡大  
複合機能化  
太陽電池基板拡大
- ・アジア 利益極大化のためのグループ  
シナジー活用  
ベトナム、マレーシアでの 1を維持  
～マレーシア 05年 休止窯再稼働、  
ベトナム 07年 新窯稼働  
国内での活用を視野

##### < 自動車用ガラス >

- ・高付加価値品の拡大と、生産革新による  
コスト改善
- ・設備更新による生産性向上
- ・ビルキントンとのシナジーの最大化
- ・中国市場への参入 (数値目標は未織込み)

#### 2005年度

##### < 建築用ガラス >

- ・国内  
機能ガラスは新商品を中心に続伸。  
(防犯ガラス生産能力 今期倍増、  
太陽電池基板ガラスの伸び期待)
- ・重点商品の分野別販売活動強化  
(プレハブ(パナホーム)、  
店舗(セブンイレブン等)への需要)
- ・リフォーム需要開拓を組織化  
(CS営業体制強化など)
- ・アジア マレーシア 予定通り2窯体制  
ベトナム新窯 建設準備に。

##### < 自動車用ガラス >

- ・愛知工場閉鎖、機能集約化。
- ・設備更新による生産性向上
- ・IRカットなど、新商品の生産拡大

板ガラス分野の基本方針について、CCP300でのものと、今年度のものと並べております。

今年度について、建築用ガラスでは、

引き続き、機能ガラスを拡販します。

防犯ガラスは、今期生産能力を倍増します。

国内は重点商品の分野別販売活動強化、例えば  
先ごろ発表したパナホーム、セブンイレブン等や、  
リフォーム需要開拓を組織化するなどの施策を、

アジアでは、マレーシアで新しく稼働した窯の増産と生産性向上、  
またベトナムの新しい窯の建設準備を進めます。

自動車用ガラスでは、愛知工場閉鎖による、生産機能集約、

設備更新による生産性向上、IRカットガラスなどの新商品の拡大、  
といったことを進めてまいります。

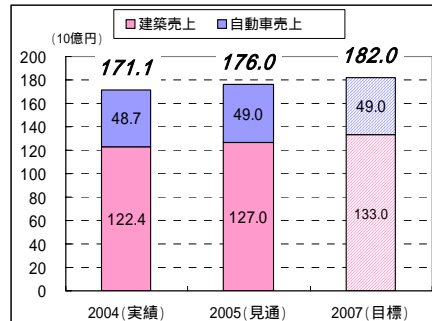
中国市場への参入については、慎重に検討をすすめており、まだしばらくかかると見通しております。

# 板ガラス分野

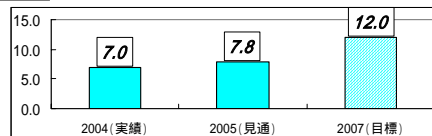
## 業績予想

### 売上

#### 年度推移



### 営業利益



	<04実績>	<05見通>
売上		
建築	1,224億	1,270億(+46億,+3.8%)
自動車	487億	490億 (+3億,+0.6%)
合計	1,711億	1,760億(+49億,+2.9%)
営業利益	70億	78億 (+8億,+11.4%)
営業利益率	4.1%	4.4% (+0.3%)

板ガラス分野での今期の業績目標であります。グラフは左から、04年度実績、05年度見通し、CCP300目標値と並んでおります。

建築の売上は、04年度の1,224億から05年度は1,270億に伸ばします。国内での機能ガラス 新商品を中心に引き続き伸ばすことと、海外では、マレーシア新窯効果で売上増を見込んでいます。

自動車は、IRカットなどの新商品の拡販で売価ダウンを抑えることなどで、04年度売上487億から05年度490億と、横ばい+ にもっていきます。

利益は、昨年の国内建築分野での値上げ効果が年間フルに寄与してくることと、機能ガラス増産効果や、愛知工場閉鎖による効率化の効果などが出ますが、原料価格が高止まりしており、利益は04年度70億から05年度78億と、微増にとどまります。

今期の原油価格の前提は、37ドルと、おきましたが、現状45ドル近辺の価格が続けば、さらに悪化することがあります。

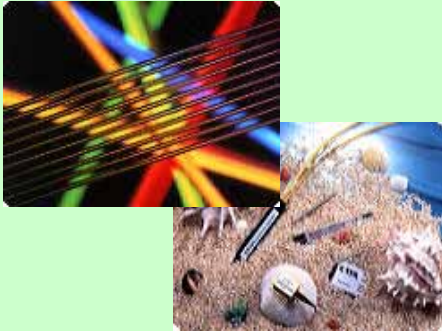
よって建築分野ではこの5月から第二次の価格改定を実施することとしました。

今期は、品質をはじめ土台をしっかりすることに専念し、確実に業績改善を進めていきたいと考えております。

## 情報電子分野

### 情報通信デバイス

SLA、SLED、化学強化ガラス他  
OA機器用部品  
セルフォックマイクロレンズ、  
各種通信用デバイスなど



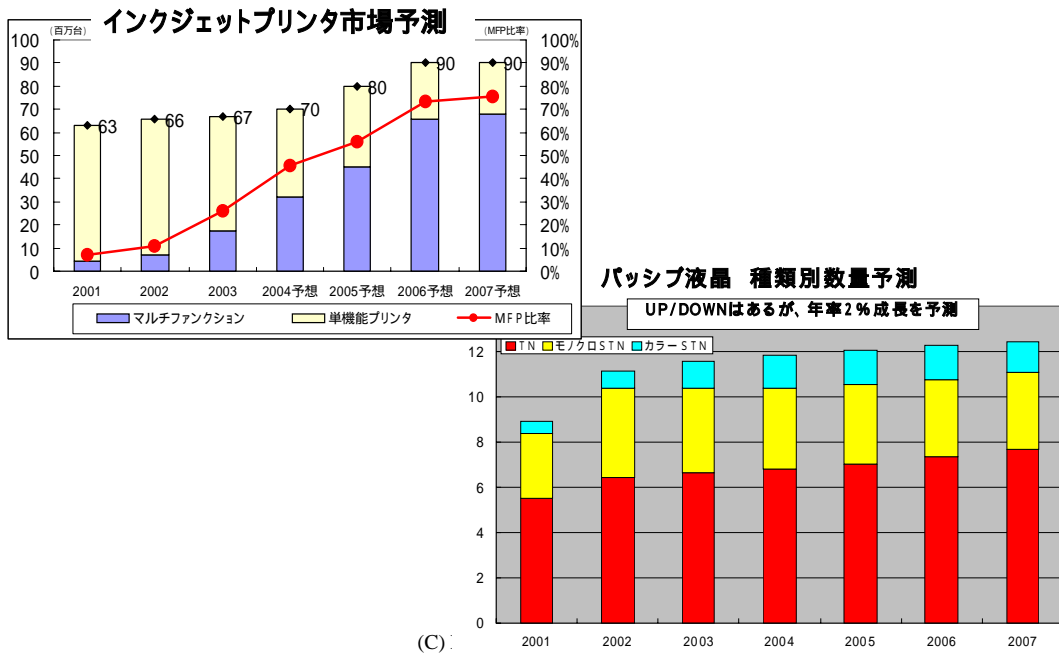
### ディスプレイ

液晶用基板、PDP基板など



次に情報電子分野です。

情報電子分野  
事業環境



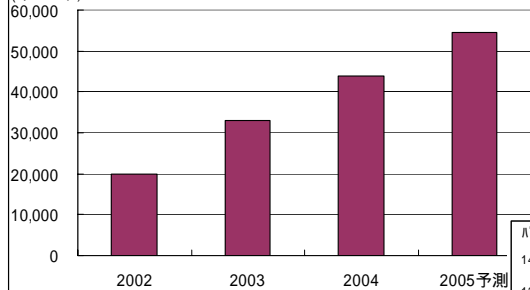
まず事業環境ですが、左上のインクジェットプリンタの市場動向は、昨年秋にお見せした通りで、グラフ青色のMFPの数量は順調に伸びており、3割程度の増量が予想されます。

赤線で示すインクジェットプリンタに占めるMFPの比率も伸びており、今期は50%を越え、2007年までには80%を超えるものと予想しています。

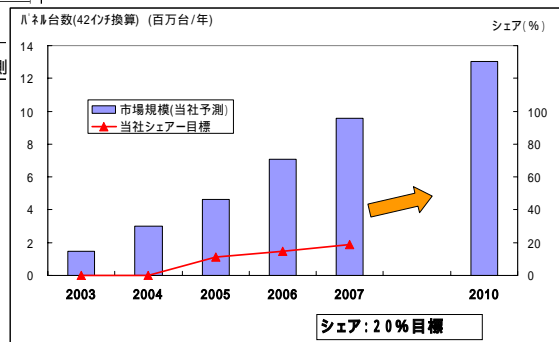
また、右下のグラフは、現在の当社の主用途であるパッシブ液晶の市場動向であります。波はありながらも全体としては年率2%程度の底堅い成長を予想しています。



TFT液晶用ガラス市場規模予測



PDP市場規模予測



(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

また、TFT液晶基板ガラスについては、当社合弁のNHテクノグラスで手がけていますが、これについても年30%近い大きな伸びを予想しており、NHテクノグラスの市場シェア10%は必ずキープしながら、この需要増に対応していきたいと思えます。

PDPについても、2007年までに現在の3倍にまで、今後も大きく伸びるものと予想しております。

# 情報電子分野

## 事業別方針

### CCP300

- <情報通信デバイス>**  
**情報デバイス**  
 レンズ・光源でドキュメント市場を制覇する。  
**通信デバイス**  
 セルフォックの強みを活かし、コンポーネント市場においてもキープレーヤーとなる。  
 (短期的には早期採算化)
- <ディスプレイ>**
- ・PDP 基板ガラス参入
  - ・TFT基板ガラス生産拡大
  - ・アクティブ領域関連ビジネス拡大
  - ・UFF 量、シェアとも向上

### 2005年度

- <情報通信デバイス>**  
**情報デバイス**  
 ・MFP向けSLA増産 4百万個体制確立。  
 市場の伸びに従い、3割増。  
 ・セルガイドは競争が次第に激化。  
 ・SLED(現状品) 数量伸長。  
 (開発品) 今期計画には、いれず。
- 通信デバイス**  
 ・北米アクセス向け通信コンポーネンツ  
 下期以降販売本格化  
 赤字縮小 単月黒字化を狙う。
- <ディスプレイ>**
- ・PDP基板へ参入。下期以降出荷拡大  
 (ただし初年度は償却負担増)
  - ・パッシブ液晶市況は7～9月期までに回復。  
 UFFシェア拡大
  - ・TFTアセンブリ増加(ナノクス)

情報電子分野の今年度の方針は、  
 情報通信デバイスでは、

- ・MFP向けSLA増産で4百万個体制と、昨年の3割増に持っていきます。  
 ここは順調に伸ばせると思いますが、光源のセルガイドについては、  
 競争の激化があり、さらなるコストダウンが必要かと考えています。
- ・SLEDは、富士ゼロックス社と共同開発を進めている新型機につきましては  
 今期計画には販売を見込んでおりません。  
 ただし600dpiの旧型については、確実に出荷量を伸ばしており、  
 これだけで黒字化が視野に入っています。
- ・通信コンポーネンツは、下期以降販売本格化に期待します。
- ・これら良い面悪い面と両面あり、売上高につきましては今期は、大幅な  
 伸びは計上しておりません。

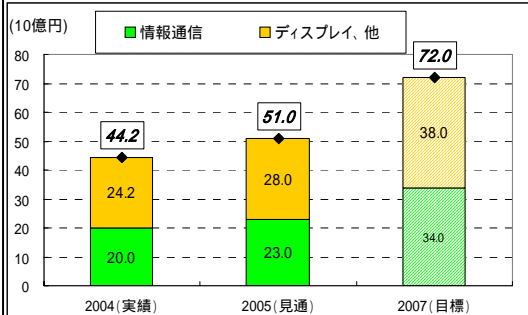
ディスプレイでは、

- ・PDP基板ガラスでは今期は売上20億程度を見込んでいます。  
 ただし初年度の償却負担があり、損益的には厳しいと見ています。
- ・パッシブ液晶は、7月以降本格回復すると見ており、  
 その後、UFFシェア拡大に動きます。
- ・また、ナノクスでのTFTアセンブリも順調に増加します。

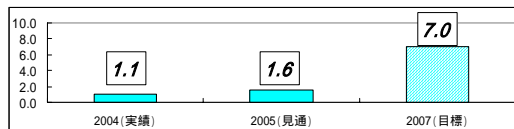
情報電子分野

業績予想

売上 年度推移



営業利益



<04実績> <05見通>

売上

情報通信デバイス

200億 230億(+30億,+15.0%)

ディスプレイ他

242億 280億 (+38億,+15.7%)

合計

442億 510億(+68億,+15.4%)

営業利益

11億 16億 (+5億,+45.5%)

営業利益率

2.6% 3.1% (+0.6%)

情報電子分野の業績予想です。同じ形式で並んでおります。

以上ご説明の結果、情報通信デバイスの売上は、光通信とプリンター用途あわせて30億程度の増収を見込んでおります。

ディスプレイでは、TN・STN液晶需要は2Qまでに回復すると見込んでおり、またPDP基板ガラスについては20億売上を見込んでおります。

利益は、

プラス面は、 光部門の赤字縮小 SLAの拡大 UFFの拡大

マイナス面は、 セルガイドの競争激化 PDP基板の立ち上がりコスト増を見込んでおり、残念ながら通期では5億程度の増益にとどまると予想しております。

これは、上半期が、液晶の需要がまだ本格的に回復しないことPDP用のコスト負担増などにより、前年上期の半分程度の4億しか利益がでないの見込んでいるため、下半期には、液晶の回復と光通信用の売上げ増により大きく改善すると見込んでおります。

# ガラス繊維分野

## ゴムコード

自動車用タイミングベルト



## バッテリーセパレータ

自動車、無停電装置などの鉛蓄電池



## フレイク他

耐食、プラスチック強化材  
光輝性顔料素材



## フィルター

クリーンルーム用など



最後にガラス繊維です。

# ガラス繊維分野 事業別方針

CCP300	<市場シェア>	2005年度
<p>&lt;ゴムコード&gt; 自動車生産増が寄与</p>		<p><b>業績</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体としては、売上、利益ともほぼ横ばい、</li> <li>&lt;ゴムコード&gt; 欧州、中国向けなどで引き続き好調。中国(蘇州)拠点を立ち上げ準備。</li> <li>&lt;バッテリーセパレータ&gt; 国際競争激化で、厳しい事業環境。売価ダウンで苦戦。コストダウンと最適生産体制の確立。</li> <li>&lt;フィルタ&gt; 半導体製造向け需要は一服。新用途と交換需要開拓を強化。</li> <li>&lt;フレーク&gt; メタシャインなど、新商品を強化。</li> </ul>
<p>&lt;バッテリーセパレータ&gt; アジアでのシェアUP</p>		
<p>&lt;フィルタ&gt; 医療分野他への展開</p>		
<p>&lt;フレーク&gt; アプリケーション拡大</p>		

(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

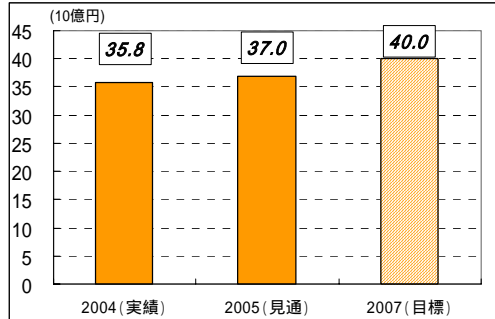
ガラス繊維については、

- <ゴムコード> ゴムコードは、欧州、中国向けなどで引き続き好調。中国(蘇州)拠点を来年度立ち上げられるよう準備をすすめております。
- <バッテリーセパレータ> 国際競争激化で、厳しい事業環境であります。売価ダウンによりで苦戦しておりますが、コストダウンと、海外も含めた最適生産体制の確立を目指してまいります。
- <フィルタ> 半導体製造向け需要は一服ですが、用途拡大と取替需要の対応を強化いたします。
- <フレーク> メタシャインなど、新商品をひきつづき強化してまいります。

中央の円グラフは各商品の市場シェアを表しております。上から、ゴムコードについては、世界85%以上、バッテリーセパレータはアジアで35%、フィルタは国内25%以上、フレーク、メタシャインは世界でも当社オンリーワンの商品です。

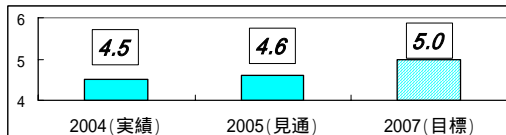
# ガラス繊維分野 業績予想

## 売上



<04実績>	<05見通>
売上 358億	370億(+12億,+3.4%)
営業利益 45億	46億(+1億,+2.2%)
営業利益率 12.7%	12.4% (-0.3%)

## 営業利益

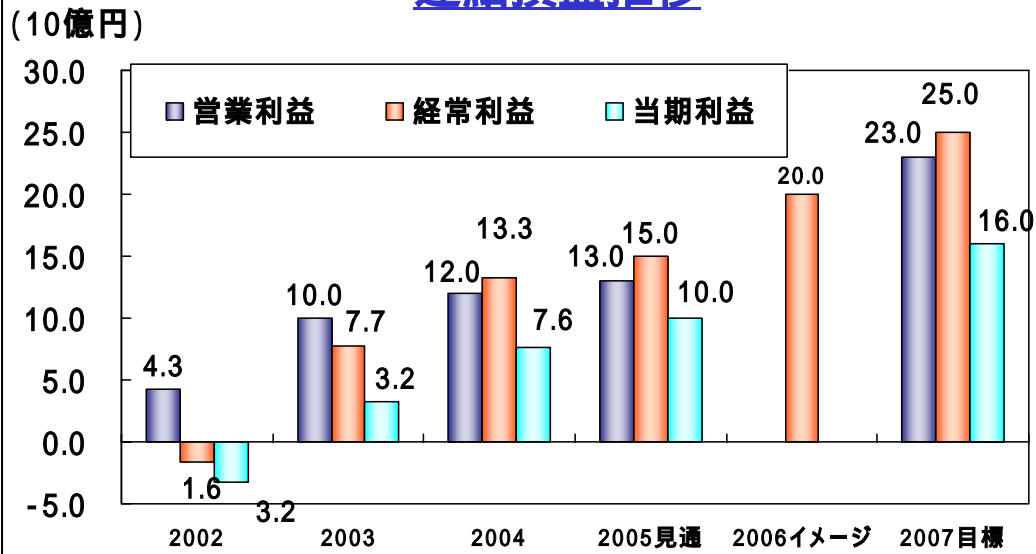


ガラス繊維分野の業績目標になります。

このような状況から、  
売上は04年度358億から05年度370億、  
営業利益は04年度45億から05年度46億と、  
ともに全体としては、ほぼ横ばいとみております。

全社まとめ

連結損益推移



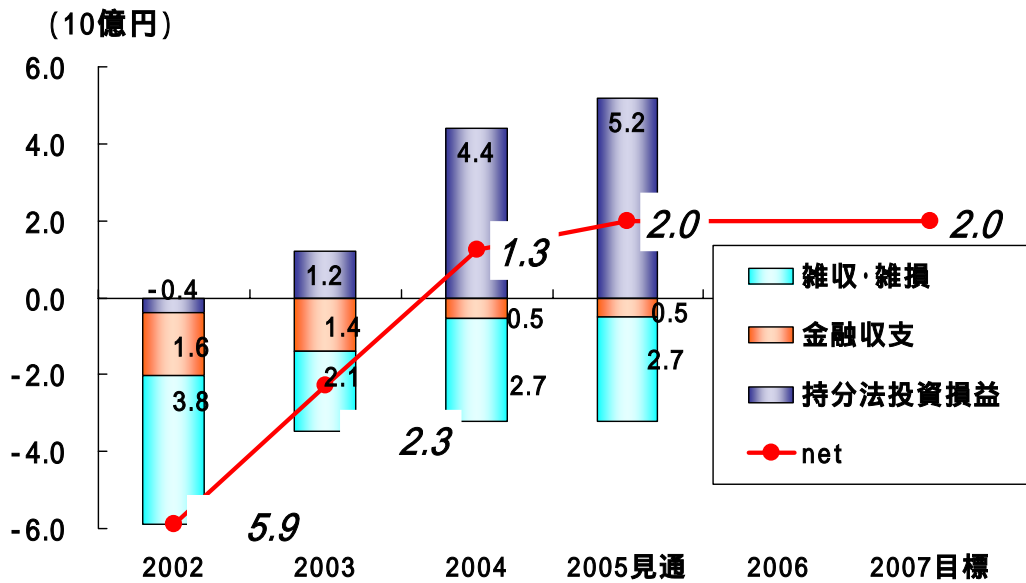
今期経常利益見通しは、CCP300の線上

全体の連結利益の推移ですが、今期経常利益見通しにつきましては、持分法利益の寄与も見込み、ほぼCCP300の線上の150億になると見込んでおります。

営業利益は今期は130億円で、若干弱いと思っておりますが、PDP、光通信その他、情電の新製品については、花が開くのはやはりリニアには行かず、CCP300期間の後半になるものと見ています。

全社まとめ

営業外損益推移



(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

一方、経常利益に影響を与える営業外損益の年度推移ですが、借り入れの減少による支払利息の減少で、金融収支が改善してきています。あわせてNHテクノグラスを中心に、持分利益も改善して営業外損益のネットでは、04年度からプラスに転じています。

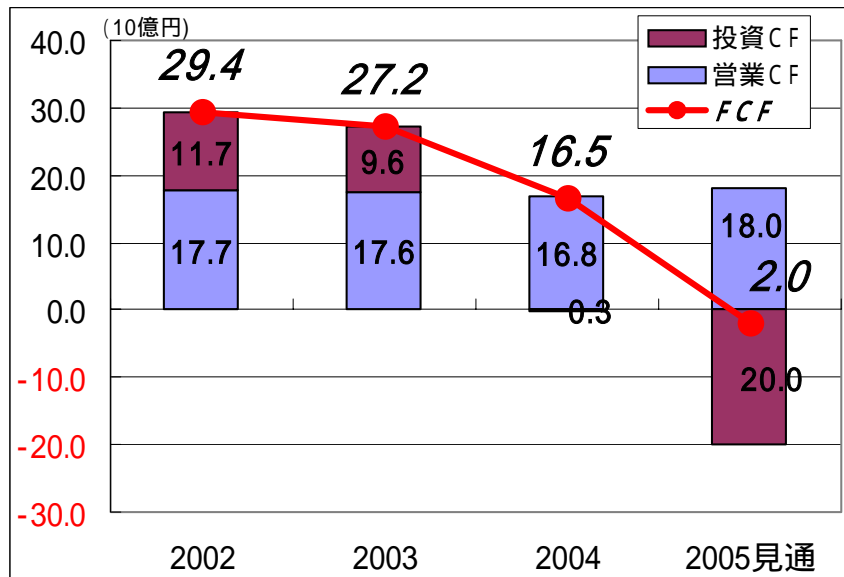
今年度もNHテクノグラスを中心とする持分利益の増加などを見込んでいまして、経常利益は営業利益プラス20億を見込んでいます。

2007年度目標の営業外の中身は明確に公表しておりませんが、今年度と同様の傾向と見ていただければと思います。



全社まとめ

キャッシュフロー推移



(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

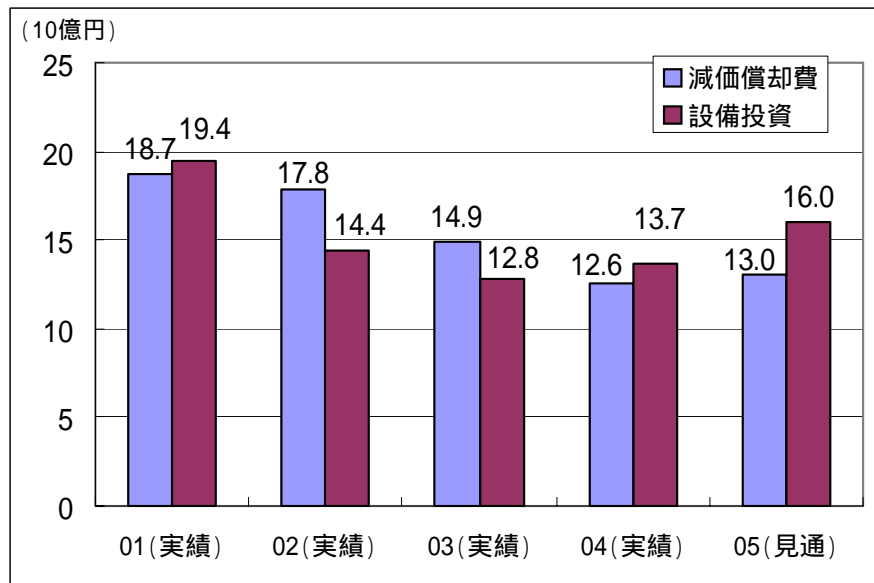
引き続き資金、財務の方向性について簡単にご説明します。

まずは、キャッシュフローの年度推移です。

過去数年間、資産売却が続き、投資CFがプラスで推移してきましたが、今期以降、設備投資の増額を予定しております。

また現時点では、株式その他の資産売却で大きなものを予定していませんので、このままであれば、投資CFはマイナス、FCFはマイナス20億程度となるものと見ています。

設備投資、償却費推移



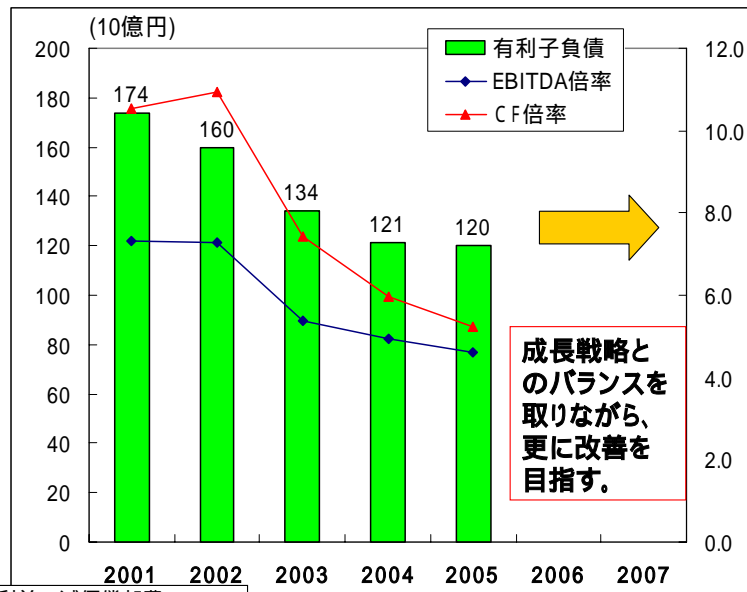
(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

設備投資と償却費の年度推移です。

資産圧縮で償却費は過去数年減少傾向が続いています。設備投資は今までは、償却範囲内に収めてきましたが、成長戦略のもと、今後は投資を増やしていく所存です。

05年度は償却費見通し130億に対して、設備投資は160億を予定しています。今後3年間は各年とも150億から200億の投資をしていきたいと考えています。

有利子負債推移



成長戦略とのバランスを取りながら、更に改善を目指す。

EBITDA = 営業利益 + 減価償却費  
CF = 当期利益 + 減価償却費 で算出

© Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

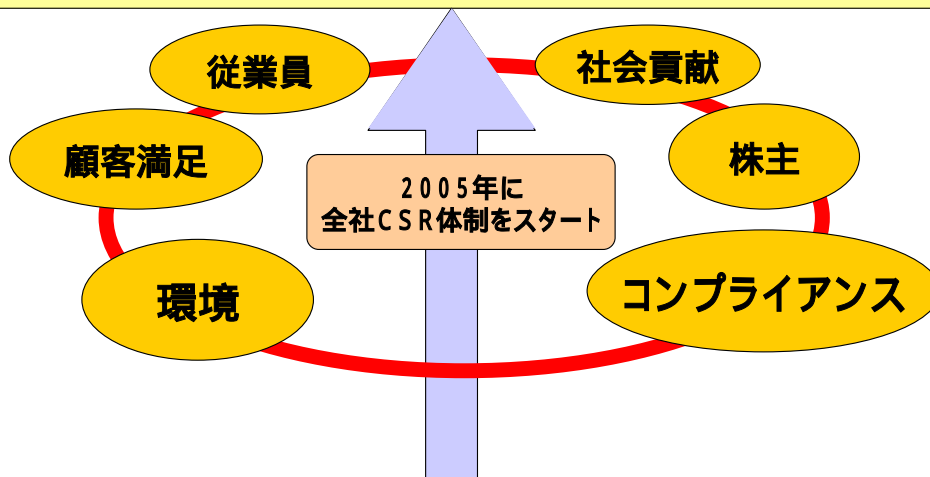
次に有利子負債の年度推移です。

一連の資産圧縮で借り入れ金を順調に減らしてきました。04年度実績の有利子負債総額は、1,213億円と100億円以上改善しました。

今後は、今まで説明した通りの成長戦略とのバランスを取りながら、更なる改善を目指してまいります。

CSRへの取り組み

New Vision …グループとしての**企業価値の向上**  
 (株主価値、顧客価値、従業員価値…**すべてのステークホルダーに**)



経営理念 (…事業の社会的使命に徹し、国家社会に奉仕する)

そして最後に、CSRの観点からご説明します。

これは、昨年秋にご覧いただいたものですが、今まで、環境、コンプライアンス、IR等 個別でさまざまな取り組みをしてまいりましたが、今年度から、これらの取り組みを一体的に見て、すべてのステークホルダーに対する企業価値の向上を目指すべく、CSR委員会を設置する予定で、プロジェクトをスタートさせたところであります。

また、個別のテーマでは、環境安全衛生部や、広報IR部などを独立組織とする機構改革を実施しまして、これらの機能の強化を行ってまいります。

## 全社まとめ

株主価値向上への取り組み

## 1. ROEの改善による株主価値向上を目指す。

- ・04年度実績 3.7%      05年度目標 4.7%  
(07年度までに6%台を目標)

## 2. 配当政策

- ・まずは安定事業における業績を基盤とした安定配当。
- ・その上で、変化の大きな事業の業績が上ぶれた場合、さらなる拡大投資等への原資や、ある程度の潜在的なリスクに耐えうる水準の内部留保を確保した上で、特別配当等での利益配分の実施を検討。

この中でも、株主価値向上への取り組みの方針としては、

まず第一には、ROEの改善による株主価値向上を目指します。

今後の成長戦略のなかでは、ROEを高め、

株主価値を高めていく方向を基本として考えております。

04年度実績のROE 3.7%を、05年度は4.7%を

目標としております。さらに07年度までに6%台が目標です。

第二に、配当政策としては、

当社は基本的に安定配当政策をとっており、赤字転落時も無配は避けました。

ただ、短信にも記載しましたとおり、配当政策についても

・まずは安定事業における業績を基盤とした安定配当を実施し

・その上で、変化の大きな事業の業績が今後上ぶれた場合、

さらなる拡大投資等への原資や、ある程度の潜在的なリスクに耐えうる

水準の内部留保を確保した上で、特別配当等での利益配分の実施、

を検討してまいりたいと考えております。

## 【参考資料】 前提条件

		2003年度 実績	2004年度 実績	2005年度 見通前提
為替	(円/US\$)	114	110	107
原油(ドバイCIF)	(US\$ / B)	29	38	37
減価償却費	(10億円)	14.9	12.6	13.0
設備投資	(10億円)	12.8	13.7	16.0
研究開発費	(10億円)	7.7	7.9	8.0
フリーキャッシュフロー	(10億円)	26.6	16.5	2.0
有利子負債	(10億円)	134.1	121.3	120.0
人員	(人)	12,612	13,385	-

原油価格反応度 1ドル/1Bの変動で1.0億円の減益要因  
 為替反応度 1円の円高で0.5億円の減益要因

(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

**【参考資料】**
**2005年度見通しまとめ**

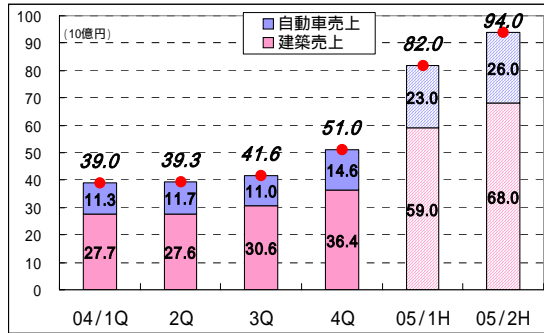
(10億円)	2004年度	2005年度見通	上期見通	下期見通
売上	<b>265.0</b>	<b>274.0</b>	<b>129.0</b>	<b>145.0</b>
板ガラス	171.0	176.0	82.0	94.0
情報電子	44.2	51.0	24.0	27.0
ガラス繊維	35.8	37.0	18.0	19.0
その他	13.9	10.0	5.0	5.0
営業利益	<b>12.0</b>	<b>13.0</b>	<b>5.0</b>	<b>8.0</b>
板ガラス	7.1	7.8	3.2	4.6
情報電子	1.1	1.6	0.4	1.2
ガラス繊維	4.5	4.6	2.2	2.4
その他	-0.8	-1.0	-0.8	-0.2
経常利益	<b>13.3</b>	<b>15.0</b>	<b>6.0</b>	<b>9.0</b>
当期利益	<b>7.6</b>	<b>10.0</b>	<b>3.5</b>	<b>6.5</b>

(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

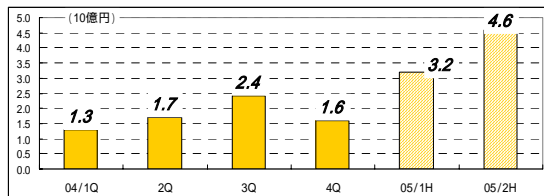
**【参考資料】**  
**板ガラス分野 業績予想**

**売上**

**四半期推移**



**営業利益**

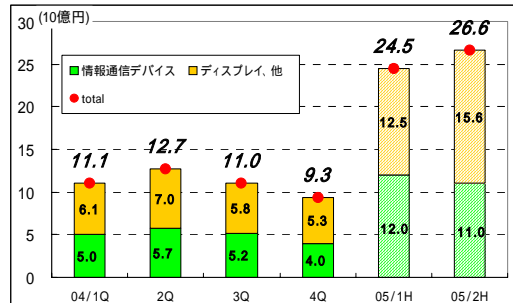




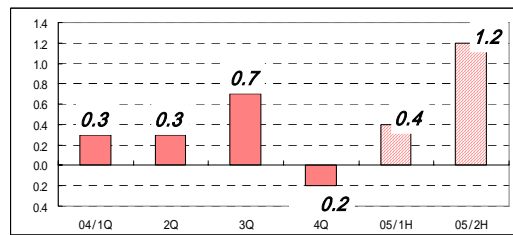
**【参考資料】**  
**情報電子分野 業績予想**

**売上**

**四半期推移**



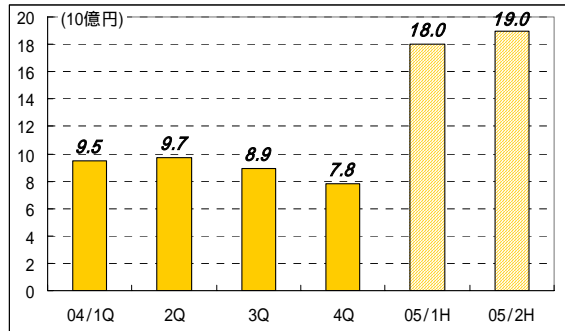
**営業利益**



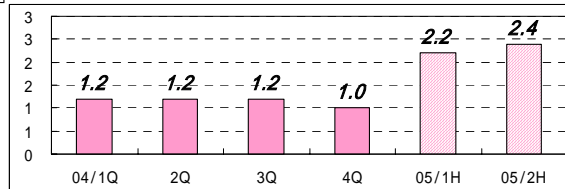
**【参考資料】**  
**ガラス繊維分野 業績予想**

**売上**

**四半期推移**

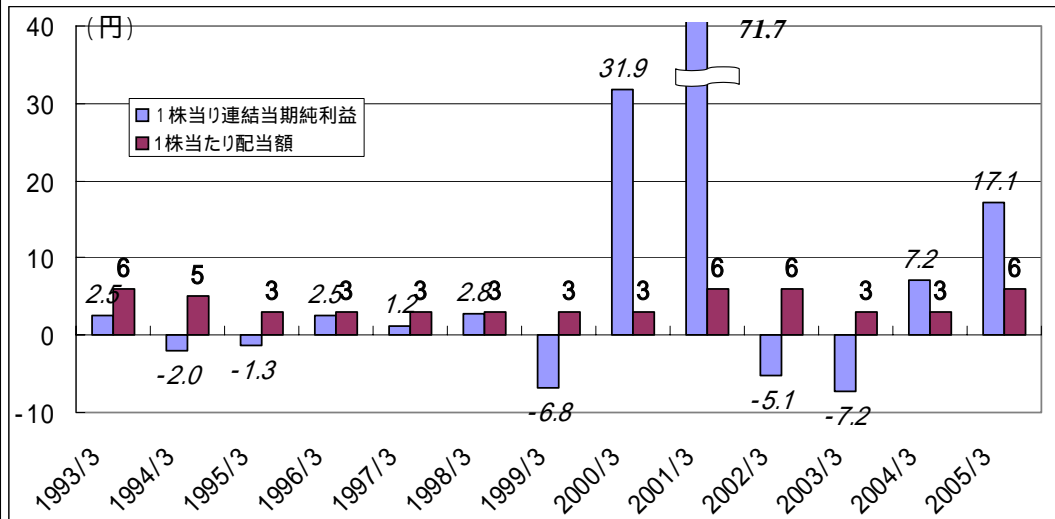


**営業利益**



# 【参考資料】

## EPS、配当推移



## ご注意

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場(日本、欧米、アジア等)の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。

日本板硝子株式会社